

ふる里の復興に寄与し「鬼すむ誇り」を育む  
岩手立志教育支援プロジェクト実行委員会

設立趣意書

1 設立趣旨

2011年（平成23年）3月11日午後2時46分、マグニチュード9.0の東北地方太平洋沖地震発生。地震や津波は一瞬にしてこれまでの生活を奪い、多くの傷跡を残していきました。平凡な日常がどんなに有り難たいかを誰もが痛感させられた時でもありました。余りにも大きな犠牲を強いられ人々は悲しみに打ちのめされましたが、「何かしなければならぬ」と自分のことのように多くのボランティアが立ち上がりました。

新聞報道では「現在日本が承認している世界の国の数は193。外務省のまとめでは、半数を超える116カ国・地域が大災害への支援を表明してくれた」「最悪の状況下でも暴動が起きず、温和で礼儀正しい日本人に対する驚異と尊敬の念を繰り返し伝えていきます」このように世界中から物心両面の支援が届けられています。中でも、台湾から世界最高額の義援金をいただいたことは特筆に値します。これまでの「日台友好の絆」の賜物と先人に感謝申し上げます。

東日本大震災から5ヶ月が経ちました。いまだに復興は進まず高い失業率、収入減、二重ローンなど不安の連鎖で大人たちは将来を描けず地域活力の低下が懸念されます。

いま自分は何ができるのか。何のために生きているのか。子どもたちをこのままにしておくわけにはいかない。復興は一代では叶わぬかもしれません。生きる意味を問う葛藤の日々が続きます。そんな時「子どもは未来からの使者である」と語る臥龍こと角田識之さんと出会いました。私たち大人が、子どもたちを信じて「未来を建設するバトン」を託すことが、明るい日本の未来を約束する唯一の方法なのです。子ども達が「夢を描き」「理想を語る」チャンスをつくり、その「夢」・「理想」を育む環境を準備・整備していくことが、私達大人の責務なのです。無気力に惰眠をむさぼるときではないのです。

幸いにも北上市内9中学校中5校において「立志式」が行われています。「ふる里のために何かしなければならぬ」という機運と合わせて、今まさに未来からの使者である子どもたちのために、一歩を踏み出すことがふる里の復興に寄与するものと決意しました。

この度、台湾APRA（エープラ）様と井上武・富紀子ご夫妻様から、未来からの使者である子どもたちの為に使って頂きたいと多額の支援金のお申し出をいただきました。これを大きな契機と捉え「立志教育」の活動を支援する実行委員会を組織いたします。「立志教育」を「地域文化」にまで高めて、子ども達の「夢」「志」の実現を図り、岩手の地から日本の明るい未来が創られるよう活動を展開させていきます。

「吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。  
四十にして惑わず。五十にして天命を知る。  
六十にして耳順がう。七十にして心の欲する所に従って、矩を踰えず」  
論語「為政」

「それ学は志を立つるより先なるはなし」  
(勉強の一番始めに必要なことは志を立てること以外にない)  
王陽明『示弟立志説』

## 2 設立に至るまでの経過

- 1) 昭和53年当時の和賀町立和賀東中学校(故菊池敬一校長)で初めての「立志式」が開催される。(現在北上市内では和賀東中学校、飯豊中学校、上野中学校、東陵中学校、北上中学校で開催)
- 2) 平成21年10月2日、ハッピータウン北上を創る「HaLAフォーラム2009 in 北上(さくらホール)」が開催。臥龍こと角田識之さんが基調講演。
- 3) 平成22年度北上市立北上中学校で初めて立志式を開催するにあたり、当時の校長(高橋忠恒氏)が相応しい講師を探していたところに、臥龍氏が理事を務める岐阜立志教育支援プロジェクトを紹介。ご縁あって平成23年1月12日に北上中学校で、岐阜立志教育支援プロジェクト理事長井上武氏をお呼びし、初めての「志授業」が行われた。
- 4) 平成23年6月1日には、北上市立和賀東小学校10周年記念事業のひとつとして北上市内では第二回目の「志授業」を岐阜立志教育支援プロジェクト講師の臥龍さんをお招し行う。広く市内の小中学校の教職員にも公開する。
- 5) 平成23年11月30日、いわさき小学校で北上市内では第三回目の「志授業」開催予定。和賀東小学校の公開授業参観者が感動し、授業開催を決意。
- 6) 過去二回の「志授業」では、岐阜立志教育支援プロジェクト委員会で作成した子ども向けの「志授業の副読本」を使用。掲載されている偉人を岩手にちなんだ人物とした「岩手版副読本」を作成したいとの機運が高まる。
- 7) 台湾APRA(エープラ)様、井上武・富紀子ご夫妻様から、岩手の復興への一助として「岩手版副読本」製作協力への支援金のお申し出を頂き、大きな弾みとなる。
- 8) 思いに共感する方が少しずつ増え、この活動を、県下に広げ、継続的に実行できるようにするために、ふる里の復興に寄与し先人に学ぶ立志教育支援プロジェクトを進める実行委員会設立を決意。

## 3 事業

目的を達成するため、次の活動に係る事業を行います。

- ① キャリア教育・道徳教育・立志教育などに関する授業・講演会の実施
- ② 副読本の製作・配布・販売
- ③ フォーラムの開催
- ④ DVD等の製作・配布・販売
- ⑤ 授業・講演をする為の指導者研修・養成
- ⑥ モデル授業の研究開発
- ⑦ 先進事例の調査研究
- ⑧ その他目的を達成するために必要な事業

平成23年9月1日

ふる里の復興に寄与し「鬼すむ誇り」を育む  
岩手立志教育支援プロジェクト実行委員会

事務局の住所 岩手県北上市鬼柳町古川83番2  
TEL 0197-67-3311

設立発起人

- ・ 小笠原味佐枝 (北上ユネスコ協会会長)
- ・ 高橋源英 (北上平和記念展示館館長)
- ・ 川村庸子 (北上市立和賀東中学校校長)
- ・ 澤田育生 (北上市立北上中学校校長)
- ・ 中川久美子 (北上市立和賀東小学校校長)
- ・ 小原俊子 (北上市立いわさき小学校校長)
- ・ 中野義明 (北上市立北上中学校PTA会長)
- ・ 高橋穩至 (北上市立和賀東中学校PTA会長)
- ・ 小原広記 (安全タクシー代表取締役)
- ・ 石川秀司 (石川硝子店代表取締役)
- ・ 藤崎信男 (フジサキ代表取締役)

北上市民憲章

- 「あの高嶺 鬼すむ誇り」 市民の理想、願い、祈りを表現しています。  
鬼は先覚者を表しており、これが鬼剣舞の鬼となってきます。  
山がひらかれ、その後に平地がひらかれていきます。  
(父なる山)
- 「その瀬音 久遠の賛歌」 市のかげがえのない文化を表現しています。  
北上川、和賀川の瀬音から、土地の何千年の文化、歴史を  
きいていこうというものです。  
(母なる川)
- 「この大地 燃えたついのち」 開発精神、土地の人間の努力、生命力を表現しています。  
(人、生命、大地)
- 「ここは 北上」 過去、現在、未来にわたってさらに伸びゆく  
新生北上市をイメージしています。

提一燈。行暗夜。勿憂暗夜。只頼一燈。

(一燈を提げて暗夜を行く。暗夜を憂えることなかれ。只一燈を頼むのみ)

佐藤一斎「言志晩録」十三条

参考までに)

【陽明学とは】

王陽明が唱えた儒学。知行合一説、心即理説、致良知説を唱え、人間が本来もっているすぐれた素質（良知）をはたらかせることの重要性を説いた。現代でも実践の哲学として多くの人々を魅了。

吉田松陰、河井継之助、西郷隆盛、乃木希典——東洋学の原点として、幾多の英傑、歴代の宰相、各界の指導者が自らの行動指針としてきた。

「志立たざれば、舵なき舟のごとく、銜（くつわ）なき馬のごとし。漂蕩奔逸（ひょうとうほんいつ）して、ついにはまた 何の底（いた）るところかあらん」と王陽明は志の重要性を説いています。

そして志を立てる ということは「念念天理を存するを要む」、つまり内なる心のあり方を問うべきと説いています。

「それ学は志を立つより先なるはなし。志の立たざるは、なおその根を種（う）えずして、徒（いたずら）に培擁（ばいよう）灌漑（かんがい）を事とするが如し。労苦するも成るなし」